



ラスベガスで国際家電見本市の CES が 2015 年 1 月 6～9 日に開催 ボッシュがコネクテッド ワールドに向けた スマートなソリューションを紹介 便利で効率に優れ、安全な生活のためにデザイン

2014 年 12 月 18 日

PI 8771 RB Ho/SL

- ▶ スマートなサーモスタットとスマート ホームの電化製品により生活がさらに快適に
- ▶ スマートなモビリティソリューション: 路上でのり安全性と利便性が向上
- ▶ ビークル インテリジェンス マーケットプレイスでドライビング アシストと eBike デモを展開
- ▶ モノのインターネット化を可能にするスマート デバイス、ソフトウェア、センサー類
- ▶ CES におけるボッシュの概要

世界中でネットワーク化がますます進みつつあります。インターネット化やグローバル化はひとりでの進んでいるかのような印象を受けるかもしれませんが、ボッシュをはじめとした各企業がこの推進に多大に貢献しています。ボッシュは、CES 2015 において、消費者にとって便利で効率的かつ安全に生活を送れるようなインテリジェントなソリューションをご紹介します。コネクテッド ワールド向けの持続可能なソリューションは多種多様で、スマート センサーからスマート エネルギー ソリューション、e モビリティから自動運転、スマート ソフトウェアからスマート シティ、テレマティクスからサーモテクノロジー、さらに電化製品や電動工具にいたるまで多岐にわたります。

エネルギーの変換はボッシュのコアな専門領域のひとつで、ボッシュは居住用建物と商業ビルのオーナーに向けてテクノロジーとサービスを組み合わせたパッケージを提供しています。ボッシュのソリューションでは、電力と熱の生成・消費をインテリジェントにリンクして管理することで、電力をいっそうスマートかつ効率的に供給できるだけでなく、分散化も進みます。ここには複数の領域にまたがるボッシュの専門知識が活かされ、技術システムのノウハウをベースに、暖房やセキュリティ制御システムが構築されています。またボッシュは、ソフトウェアやセンサー技術、エネルギー管理向けのサービス、遠隔監視、業務プロセスの処理といった各種サービスも提供しています。これにより、お客さまはいっそう効率的にエネルギーと資源を利用できるようになり、コストの削減も可能になります。モノのインターネット化は、建物内の機器やシステムの相互間での通信を可能にします。ボッシュでは、2015 年までに世界の人口の約 75% がインターネッ



トにアクセスできるようになり、60億のモノがインターネットに接続されると予測しています。この進化により、今後数年間で、エネルギーおよび建設関連テクノロジーの市場も大きく変化し、新しいサービスとビジネスモデルに向けた道筋が整うと考えられています。ボッシュはこの分野においてもすでに豊富な経験を持っており、例えばネットワーク化された暖房システムの販売個数は5万個に達しています。また、ボッシュのセキュリティシステム事業部は、ビデオ監視システムの売上高の半分以上をインターネットに接続可能なカメラによって得ています。

スマートフォンを使って家庭の暖房を操作するスマートサーモスタット

ボッシュは今回、現代的なタッチスクリーンとそれに対応するアプリを備えたWi-Fi対応の遠隔室内コントローラーを発表します。ユーザーはこのコントローラーを使って、スマートフォンを介して自分の暖房システムを操作できます。ボッシュの幅広いGreenstarガスや灯油を燃料とするボイラーに対応した、洗練されたスマートなサーモスタットにより、無線インターネット接続を介して、スマートフォンやタブレットから暖房を調節することも可能です。シックなブラックのガラス製壁掛け式パネルは取付けも容易で、低電圧の2線接続を使ってボイラーに接続できます。使いやすい無料アプリも用意されており、家のオーナーは、自宅はもちろん職場や休暇先でも暖房や温水を完全に管理することができます。さらに、このアプリを使えば、暖房と温水の設定を遠隔で調節できるだけでなく、暖房と温水向けのガス消費量に関する情報も得られるため、エネルギー価格が上昇している昨今、費用も管理しやすくなります。また、ボッシュが策定した安全基準とデータセキュリティ基準も、きわめて高水準で信頼性の高いものとなっています。すべての顧客データはユーザーの自宅のコントローラーに保存されて、プライバシーが確保され、ボッシュでさえこのデータにアクセスできないようになっています。

スマートホーム向けのオープンソフトウェアプラットフォーム

スマートホームで特に重要となるのは、洗濯機、暖房器具、照明、シャッターをはじめとした住宅設備や家電すべてが相互に、またスマートフォンやタブレット端末とも情報を簡単かつ安全に交換できるようになることです。ボッシュ、ABB、Ciscoの3社は、スマートホーム向けの機器やアプリケーションに対応するオープンソフトウェアプラットフォームの開発・運用を担う国際的な合併会社の設立を計画しています。同合併会社は今後、ソフトウェアプラットフォームの開発・運用を行うだけでなく、家電メーカー、ホームオートメーションシステム関連企業やサービスプロバイダーにも「エコシステム」事業への参加を呼びかけていく予定です。この「エコシステム」事業が目指すのは、ソフトウェアプラットフォームの開発にあたり、企業間の連携を円滑に進め、ユーザーの幅広い要求を組み込むことです。



異なるブランドの家電製品をつなぐホーム コネクト アプリ

家をネットワークでつなぐためには、あらゆる分野で共通の言語を採用することも非常に重要となります。そこでボッシュは、異なるブランドの多様な家電製品を管理し、ひとつのアプリで数多くの機能を利用できるようにする世界初のソリューションを発表します。また、このシステムを装備した最初のネットワーク化された家電製品（冷蔵庫、オーブン、食器洗い器、洗濯機など）も CES で紹介します。このシステムはオープン プラットフォームとして設計されており、より幅広いサービスを網羅できるよう進化が続く予定です。

スマートなエネルギー システムによる効率の向上とコスト削減

ボッシュは CES において、最新のヒートポンプ テクノロジーと太陽光発電システムを組み合わせることで、電気や熱エネルギーを用いてどのようなスマートなコネクティビティが実現可能なのかを紹介します。ユーザーはこのソリューションを通じて、太陽光から発電した電力の大半を自身の家で消費することで電気代を大幅に削減できるだけでなく、ヒートポンプを駆動させて空気・水・地面から熱を取り出し、その熱を暖房や温水に利用するエネルギーに変換できるようになります。このボッシュのシステムはエネルギー管理システムを備えており、ヒートポンプがいつ電力を必要とするかを把握できるため、例えば十分に日光が得られる場合は太陽光発電で、このニーズに応えることができます。

スマートな制御システムの中核となる「e.Control」は、各世帯の電気メーターに接続され、家の中の電力フローをモニターします。このシステムは、現在使われている家電製品への電源供給を優先するよう設計されています。ボッシュのインバーターに接続された太陽光発電システムで余剰電力が生まれた場合には、e.Control がヒートポンプに信号を送り、温水タンクを加熱します。これにより、余剰電力を安い価格で電力網に送電するのを避けることができ、各世帯の太陽光発電を最大限に活用することができます。また、これは公共の電力網の負担軽減にもつながります。

スマートなエネルギー貯蔵ソリューション

このエネルギー システムにボッシュのハイブリッド貯蔵ソリューション「Power Tec BPT-S 5」を組み込めば、各世帯が太陽光発電システムで生成した電力をさらに活用できるようになります。たとえ曇りの時や日没後でも、この貯蔵システムはヒートポンプに電力を確実に供給し続けることができるのです。貯蔵システムを組み込んだ場合、余剰電力がパワフルなリチウム イオン バッテリーに送られ、ヒートポンプに信号が送られます。温水タンクが加熱されると、電力が熱エネルギーに変換され、実質上、蓄えられているエネルギー量が増大します。そのため、こうしたシステムの運用は公共の電力網からの独立を実現する上で大きなステップとなります。

家庭のセキュリティーを向上させるスマート セキュリティー システム

ボッシュが発表するもうひとつの革新技术は、監視ビデオに遠隔操作でアクセスする方法です。モバイル機器では処理能力が限られているため、HD ビデオをストリーミン



グすることはできません。しかし、ダイナミックトランスコーディング技術を使えば、処理能力に関係なく、必要なときにスムーズなライブビデオのストリーミングとHD(1080p)画像に瞬時にアクセスできるようになります。さらに、ビデオセキュリティアプリと組み合わせれば、時と場所に制約を受けることなく、モバイル機器を使ってカメラ操作機能、ライブ動画やHD画像にアクセスできるほか、数時間におよぶ録画済みの動画から瞬時に適切なデータを抜き出すことも可能になります。

ボッシュはCESで、住居侵入警報システムについても紹介します。Bシリーズの侵入コントロールパネルを使うと、自宅や小規模の会社のセキュリティを便利に監視できるようになります。このフレキシブルなパネルは、セキュリティのカスタマイズや、スマートフォンとタブレットからの遠隔操作を行うことができます。Bシリーズのパネルは、個々の部屋や、自宅または会社建物内の最大4つの異なるエリアを監視するよう設定でき、他の部屋に影響を与えることなく、特定のエリア(ゲスト用の特別室、サンルーム、台所や独立ガレージなど)を監視対象としたり、監視対象から外することができます。このパネルは、開いている窓やドアのチェック、煙探知器の監視、非常装置の作動、その他のサービスを通じて自宅や会社を守ります。iOSまたはアンドロイド装置から、リモートセキュリティコントロールアプリを介してシステムを操作することができ、システムの作動/解除や状態の確認のほか、パネルと携帯電話との接続、インターネットや携帯端末を用いたローカル無線ネットワークを通じて、モニターしている装置を操作することができます。また、警告音やその他の警告などの発生通知を携帯電話に直接送信することもでき、オーナーは不在時に自宅や会社の状況を常に把握することができます。

さらに、ボッシュはCESにおいて、ホームコントロールゲートウェイの「Z-Wave」を発表します。このソリューションは、BシリーズのコントロールパネルとZ-Wave関連機器である照明スイッチ、ドアロック、温度センサー、IPカメラなどの各種装置との接続を可能にするものです。これにより顧客はホームオートメーションシステムと遠隔監視機能を利用できるようになります。例えば、玄関のドアをロックすると自動的にセキュリティシステムが有効になり、ロックを解除するとシステムが無効になるように設定することもできます。また、ユーザーが自宅を離れるときは、スマートフォンで「留守」ボタンをタップするとドアが施錠され、セキュリティシステムが有効になり、室内の照明を消灯し、エネルギーと費用を節約できるようサーモスタットを調節することも可能です。これらは自宅の管理をしやすくするためのオプションの一例にすぎません。直感的なウィザードを通じて、インテグレーターは各顧客の不定期・定期的な予定の操作を簡単に設定することができるのです。ウェブインターフェースにより、ユーザーはiOS、アンドロイドスマートフォンやその他のウェブ対応機器を通じて、システムダッシュボードとホームコントロールにアクセスすることができます。

スマートなモビリティソリューション: 路上もいっそう安全&便利に

およそ20年前にインターネットはコンピューターの世界に革命を起こしましたが、今後は数年にわたり自動車に革命をもたらすことになると予想されています。今回のCESでは、ボッシュがどのようにして自動車をインターネットの中心的な要素とし、ドライバー



に一連のメリットを提供できるようになるのかをお伝えします。ボッシュは関連するすべての分野において、すでに幅広いノウハウを持っており、外の世界とのつながりを確立するハードウェアのほかにも、ユーザーとサービス プロバイダーを結びつけるフレキシブルな基本ソフトウェアや数多くの関連サービスを提供しています。

ボッシュのコネクティビティコントロール ユニットは、あらゆるスマートなソリューションを物理的に実現します。車載ネットワークに接続されたこの小さなボックスには、通信用の GMS モジュールに加え、通常は GPS モジュールも組み込まれており、これにより多くのサービスにとって重要な情報となる現在位置データが得られます。ボッシュはこのユニットを乗用車、トラックやモーターサイクルで使用できるようさまざまな構成で提供しています。例えば、早くも 2016 年には、欧州と米国の長距離商用車のすべての新車にネットワークソリューションが採用されるとボッシュは見ています。

100%子会社の Bosch Software Innovations は、フレキシブルに使用可能なモジュラータイプのソフトウェア一式を提供しています。このソフトウェアは、シンガポールでは 2011 年からネットワーク化された利用しやすい車両充電インフラのベースとして、またドイツでは 2013 年からフリート管理サービスのベースとして採用されています。さらに 2015 年には、シュトゥットガルトの革新的な複合一貫輸送コンセプトのプラットフォームとして採用される予定です。

さらに、ボッシュが新たに提供するテレマティクス サービスにより、フリート運用者は明確に状況を把握できるようになります。走行・整備関連データは、車載のオンボードダイアグノシス(OBD)システム向けのインターフェースを介して、データ解析のためにボッシュに送られます。ここでデータが分析され、フリート運用者は運行時間と整備時間を最適化することができます。GPS 車両追跡システムも組み込まれているため、電子ログブックや盗難警告システムなどのサービスも利用することができます。こうして、車両に関わる全体的なコストの低減にも大きく役立ちます。

車内緊急通報サービスの「eCall」は人命救助につながるソリューションです。車両が事故に巻き込まれたことをシステムが検知し、この情報が 24 時間対応のボッシュ コミュニケーション センターに送られます。それを受け、同センターの多国語対応可能なスタッフがドライバーに連絡を取り、必要に応じて警察と救急サービスに通報します。

ボッシュはワークショップのネットワーク化を推進

車両が整備や修理に回されても、ネットワーク化は続きます。ボッシュは、車両エレクトロニクスがますますパワフルかつ複雑になっていることを踏まえ、不具合の診断やオンラインでの修理に役立つ車両データにワークショップがアクセスできるようにしました。ボッシュの故障診断システム「Flex Inspect」を使えば、自動的に故障メモリを読み出し、バッテリー、タイヤ空気圧やシャシー ジオメトリーをチェックすることができます。これをもとに、顧客サービス アドバイザーはドライバーと必要な修理についてその場で話し合うことができるほか、技術者は修理作業中に拡張現実技術を利用することができます。また、タブレット端末タイプの故障診断用コンピューターのカメラの焦点をエンジンルー



ムに合わせると、修理に関する指示や必要な工具などの関連情報が画像に重ね合わせて表示され、サービス マニュアルを参照するという時間のかかる作業も一切不要になります。カバーやダッシュボードの背後に隠れている部品であっても、3次元画像で視覚化することができ、不具合の診断や修理がこれ以上ないほど簡単になります。

新しいディスプレイ技術と魅力的なスマートフォン統合ソリューション

新しいコネクテッド サービスが増えていくことで、情報量はあっという間に増えていきます。しかし、ドライバーの気が削がれるようなことは最小限に抑えなくてはなりません。そこでボッシュは、情報に優先順位をつけ、それを直感的に表示できるようにする技術ソリューションを CES で紹介します。特に魅力的なアプローチとなるのは、ディスプレイベースのインストルメントクラスターです。これは従来のディスプレイに代わるもので、ドライバーの視界内にメーター、ナビゲーション、マルチメディア情報のすべてを投影し、ドライバーの希望や状況に応じてさまざまなレイアウトにすることができます。このフルディスプレイ ベースのインストルメントクラスターに関しては、ボッシュの2つのソリューションがすでに BMW i8 とアウディ TT で量産化に進み、今後もさらに増えていく予定です。もうひとつのコスト パフォーマンスの優れたソリューションは、ボッシュのコンパイナードヘッドアップ ディスプレイです。このシステムでは、情報はウィンドシールドではなく、その下に置かれた小さな特殊プラスチック製のスクリーンに投影されます。画像は車両の前方 2 m ほどのところに、周囲の風景に重ね合わせるようにして表示されます。2014 年以降、このシステムは BMW グループのさまざまな車両に採用されています。

外界とのネットワーク化は、現在は主にスマートフォンを通じて実現されています。ボッシュの mySPIN ソリューションは、アンドロイド ベースまたは iOS ベースのスマートフォンとの統合に、非常に魅力的な手法となっています。この「mySPIN」は、車両とデバイスを完璧にリンクさせ、車内での使用時に高度な安全性と信頼性を実現します。そのほかにも、音声入力や、リアルタイム交通情報に基づく走行戦略を可能にするナビゲーション システムなど、ボッシュのさまざまなエンテインメント システムが CES に展示されます。また、ボッシュの子会社 ESCRYPT は、新しい便利なアシスタント機能を最新の状態に保つために安全な無線ソフトウェア アップデートを可能にするソリューションを展示します。

ビークル インテリジェンス マーケットプレイスで

ドライビング アシストと eBike のデモを展開

未来のモビリティでは、電動化と自動化、さらにネットワーク化が進みます。そこでボッシュは、ビークル インテリジェンス マーケットプレイスの屋外エリアで、自動運転に向けて先駆ける革新技術を紹介し、ボッシュの渋滞アシスタントを装備したデモ車両に乗れば、混雑した道路での自動誘導走行がすでに現実のものとなったことを誰でも体感することができます。この車両は、加減速と車線内でのステアリング操作を完全に独力でできるようになっています。ドライバーは引き続き車両を監視する必要がありますが、総合的な負担ははるかに少なくなります。また、来場者はボッシュの e-bike 駆動ユニットを備えたさまざまなブランドの e-bike を専用コースで自由に試乗できるほか、



ボッシュの各種センサー技術や、e-bike、e スクーター、ハイブリッド車や完全な電気自動車にいたる幅広い e モビリティソリューションを見ることができます。

スマートな デバイス、ソフトウェア、各種センサー

ボッシュは、インターネットを利用したモノのネットワーク化でカギとなる技術「マイクロメカニカル センサー (MEMS)」の分野においても、世界のマーケットリーダーとなっています。現在、世界のスマートフォンの 2 台に 1 台はボッシュのセンサーが使われています。ボッシュは、モビリティのネットワーク化、生産のネットワーク化、エネルギーシステムやビル of ネットワーク化のためのソリューションを提供するという戦略的目標を掲げています。それに向けた技術的進化の次のステップがインテリジェントなセンサーです。このセンサーには、無線インターフェースとマイクロコントローラーが装備されるため、例えば必要なデータをインターネット経由でモバイル端末に送信することも可能になります。マイクロメカニクス of 進化の次の波にとって決定的となるのはソフトウェア of 統合で、これはすでに自動車と家電製品で広がっています。

すべてのモノには、センサーと Wi-Fi 対応機器を取り付け、情報通信のために独自のウェブ アドレスを割り当てることができます。こうしたネットワーク化がモノ of インターネット化のベースとなり、コネクテッド ライフ of 実現が可能になります。ボッシュは、自動車や家電製品向けに幅広い用途 of 各種センサーを提供しています。そして今、世界のスマートフォンの 2 台中 1 台にボッシュ of センサーが使われるようになりました。ボッシュ センサーテックは CES 2015 において、測定可能な変数範囲 of 拡大とインテリジェンス of 向上を目指す技術動向を踏まえ、新しい多機能センサーを発表する予定です。このセンサーには 4 つ of 測定量が統合されており、家電製品やウェアラブル端末、さらにモノ of インターネット化などの分野でさらに用途が広がる可能性があります。また、ボッシュ傘下ブランドであるアクスティカは、高性能な HD 音声マイクロフォンの製品ポートフォリオを展示予定です。

目標は、ローデータではなく、必要な情報だけをインターネットに送信することです。このローカル データ of 処理には、ボッシュが持つ特殊なシステム ノウハウが必要となりますが、ほぼすべてのものをセンサー経由で接続することができます。そのため、従来はエレクトロニクスとは無縁だったドアや窓などのモノが、その状態 of 情報をインターネットに送信できるようになる見込みです。つまり、マイクロメカニクスこそがモノ of インターネット化を可能にします。そこで、ボッシュは新会社 of Bosch Connected Devices and Solutions GmbH とともに、この分野で新しいソリューションを開発しようとしています。同社は、スマート ホーム、輸送、物流・運輸、スマート アクティビティ、コネクテッド インダストリー of 分野に照準を当てて事業を展開しています。



新次元の充電を可能にするボッシュのワイヤレス充電システム

ボッシュは、コードレス工具において誘導エネルギー伝達の利点を活用することに成功した世界初のサプライヤーです。ボッシュのワイヤレス充電システムは新次元の充電技術であり、コードレス工具を用い高効率で費用と時間の節約ができる新たな方法を提供しました。電動歯ブラシや、最近では携帯電話の充電スタンドなどの分野の機器でも利用されているこの技術は、非接触型のエネルギー伝達をベースにしています。このシステムでは、トランスミッターに組み込まれたコイルにより交流磁場が生成されます。レシーバーにもコイルが組み込まれており、これを交流磁場が貫通することで電圧が誘起され、電流が発生します。ボッシュのワイヤレス充電システムは、充電器が磁場を放出し、これをバッテリーが受け取り、充電電流に変換します。しかし、従来の電動工具のバッテリー充電器の場合と同程度の充電時間となるよう、伝達される電力は通常の電動歯ブラシの 50 倍以上 (1 W) となっています。

クリエイティブかつ機能的に使える 3D プリンター

ボッシュ ブランドのドレメルは、今回の CES で「3D Idea Builder」を発表します。この製品は市販されている中で最もユーザーフレンドリーな 3D プリンターで、ボッシュの多目的な工具システムの強力な製品ポートフォリオに新しい次元をもたらすものでもあります。ドレメルの他の工具と同じように「Idea Builder」も高品質で使いやすく、エンドユーザーにインスピレーションを与え、エンドユーザーが自分のアイデアを生かせるように設計されており、ドレメルのエキスパートのサポートと助言を受けることもできます。ドレメルは Autodesk 社との戦略的パートナーシップを通じて、無料でプリントできる 3D モデルとシンプルなデザイン ツールを提供するほか、製造プロセスを通じてユーザーをサポートできるよう、www.Dremel3D.com で新しいデザイン ツールをリリースする予定です。

CES におけるボッシュの概要

2015 年 1 月 5 日午前 8 時 (現地時間)

ボッシュ記者会見

発表者: ヴェルナー・シュトルト、

ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー

マンダレイ ベイ南コンベンション センター、2 階、ダンスホール F

2015 年 1 月 6~9 日

ボッシュ ブース 71032

サンズ エクスポ、スマート ホーム マーケットプレイス

ボッシュ アウトドア エクスペリエンス

ボッシュ e モビリティ ワールド

ボッシュ eBike 走行コース



ラスベガス市街地でのボッシュドライバー アシスタンスドライビング エクスペリエンス
ラスベガス コンベンション センター、ビークル インテリジェント マーケットプレイス
北ホール付近のゴールド ロット

1月6日午後3時30分～4時30分(現地時間)

パネル「センサー フュージョンを通じた低電力と最大限の機能の実現」

発表者: シュテファン・フィンクバイナー

ボッシュ センサーテック社 ゼネラル マネージャー兼 CEO

ベネチアン ホテル、1階、マルコ・ポーロ 702 会議室

1月7日午前11時～12時(現地時間)

基調パネル「迅速な技術革新:破壊するのか、それとも破壊されるのか」

発表者: ヴェルナー・シュトルト、

ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー

およびジョン・チェンバース、Cisco 社 CEO

ウェストゲート ホテル(旧 LVH ホテル)のホール

1月7日午前11時30分～午後12時30分(現地時間)

パネル「自動運転車両への道に横たわる障害」

発表者: デイルク・ホーアイゼル

ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー

ラスベガス コンベンション センター、北ホール、N261 会議室

1月7日午後1時～2時(現地時間)

パネル「スマート ホームの進化」

発表者: ライナー・カレンバッハ

Bosch Software Innovations 社 CEO

ベネチアン ホテル、1階、ルーム カザノヴァ 605

1月7日午後3時30分～4時30分(現地時間)

パネル「自動車技術の目」

発表者: ジム・フィッシュ

Bosch Automotive Service Solutions 社

ラスベガス コンベンション センター、北ホール、N261 会議室

報道用画像:

1-TT-20369, 1-PT-20780, 1-UBK-19968, 1-RB-19652-e, 1-RB-20112-e, 1-BPTE-20200-e, 1-BPTE-20190, 1-BST-19182, 1-PT-20197, 1-PT-20198, 1-BST-20778, 1-BST-20779, 1-RB-20117, 1-CC-19153, 1-AA-20558, 1-CM-18923

報道関係対応窓口:

Christian Hoenicke

Stephan Kraus



電話: +49 711 811-6285

電話: +49 711 811-6286

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディング・カンパニーです。2013年の従業員数は約281,000人、売上高は461億ユーロを計上しています（注：会計方針の変更のため、今回公表する2013年のデータと昨年発表した2012年データは、限定的な範囲での比較）。事業はモビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社約360社、世界約50カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売、サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業展開しています。この開発、製造、販売のグローバル・ネットワークが、ボッシュのさらなる成長の基盤です。

ボッシュは2013年に約45億ユーロもの金額を研究開発に投資しました。さらに全世界では5,000件以上の国際特許の基礎特許（第一国出願）を出願しています（1日あたり平均20件の出願数）。私たちは革新的で有益なソリューションを提供し、そのすべての製品とサービスを通して、人々を魅了し、人々の生活の質を向上させることを目的にしています。この方針に基づき、ボッシュは全世界において人と社会に役立つ革新のテクノロジーを提供し続けていきます。それこそが「Invented for life」です。

ボッシュの起源は、1886年に創業者ロバート・ボッシュ（1861～1942）がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの財務上の独立性と企業としての自立性を保証するものです。「株主（利益配当）」と「経営（議決権）」が完全に分離した企業形態によって、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式の大半は非営利組織である公益法人「ロバート・ボッシュ財団」（持株比率92%、議決権なし）が保有しています。議決権の大部分は株主の事業機能実行機関である共同経営者会「ロバート・ボッシュ工業信託合資会社」が保有しています。残りの株式と議決権は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報は www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英文）
www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英文）、ツイッター
<http://twitter.com/BoschPresse> を参照してください。